

#09b_わたカノ～望海～

◆…望海

◆「えっと…その…」

◆「これは、現実なのですよ？」

◆「あなたは、本当に私を選んでくれた…んですよ？」

◆「す、すみません…なんだかまだ実感が湧かなくて…」

◆「あなたに選んでもらった喜びよりも、驚きの方が強いんです」

◆「すう～、はあ～すう～、はあ～ふう…よし」

◆「ふふ、段々と実感が湧いてきました。…ふう」

◆「ご、ごめんなさい…思わず涙が…」

◆「いけませんね。本を読んでいる時とかも
感動しちゃうとすぐに涙が出てしまうんです。私」

◆「でも、私達はこれで晴れて恋人同士になれたのですね」

◆「いえ、元から私があなたの本当の恋人ではあったのですが、
改めてというか…なんというか…」

◆「でも選んでもらえて…とても、とても…嬉しいです」

◆「ありがとうございます」

◆「ちゅっ♡」

◆「ふふ、突然をキスされて、驚きましたか？」

◆「でも当然のことではないですか。私達は恋人同士なのですから」

◆「これくらい…ただのスキンシップですよ。スキンシップ」

◆「すみません…自分で言って恥ずかしくなりました」

◆「顔が暑いですが…私の顔、火照っていませんか？」

◆「もっと、近くで…見てください」

◆「ちゅっ♡」

◆「ふふっ！ ふう…」

◆「ちゅっ…ちゅっ…ちゅうううっ…！」

◆「はあ…幸せです。ずっとこの日を迎えるのを、待っていましたから」

◆「約束していたんです。寧音さんと…」

◆「キス以上のことをするのは、本物の恋人がどっちか決まってからにしよう」と

◆「なので…こういうことができ、本当に幸せなんです」

◆「もっともっと、幸せ…噛み締めさせてください」

◆「んむっ…ちゅっ…ちゅっ…ふうっ♡

ちゅっ…ちゅうっ…ちゅ…んっ…ふっ！

ちゅっ…ちゅうっ…ちゅううう、ちゅっ、ちゅっ…ちゅう♡」

◆「不思議です。唇が触れ合うだけで、こんなにも幸せで、
気持ちがいい。癖になってしまいそうです」

◆「ちゅっ♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡

幸せ…んふっ、ちゅう…ちゅう…ちゅうううっ！

んちゅっ…はっ…はっ、んちゅ…ふう…！」

◆「ちゅうっ♡ ちゅ♡ ちゅ♡ んふう、んちゅ、ちゅっ♡ ちゅ♡

もっと…ひてください…んふっ♡ ちゅ、ちゅ♡ ちゅうううう…！」

◆「もっと…もっと…♡」

◆「ちゅっ、はふっ、ちゅう♡ ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ♡

んふ、あう、ふう♡ はあ…ちゅうっ、ちゅっ！ ちゅうううっ！」

◆「好きです…大好きです…♡」

◆「はあ♡ はあ♡ もう、我慢できません。はあむう♡」

◆「んちゅっ…♡ ちゅっ！ んちゅちゅうっ♡ はむっ♡

んれろ…れろれろ♡ ちゅっ♡ んじゅちゅ…♡ んふっ♡

あうっ、ちゅっ…ちゅうう！ じゅりゅ♡ じゅちゅう♡」

- ◆「んちゅっ♡ んふっ♡ ちゅっ♡ れろれりゅ♡
はふっ、はあ…んふっ、はむっ、ちゅう、んじゅ、れろれろ…
んちゅ、んんふっ、れろ、れりゅ、れろろ…♡」

- ◆「突然すみません。ついつい…舌を挿れてしまいました」
- ◆「私だって、こういうことをしたい欲はあるんです」
- ◆「あなたと、ずっとずっと…こうしたかったんですから」
- ◆「だから、もっと…もっと、やらせてください」

- ◆「本で得た知識ではありますが、知識はありますから！
後悔はさせませんよ？」

- ◆「はむっ♡ んじゅりゅりゅ…♡ はうっ、んふっ♡
れろ、れろれろ…♡ れりゅれりゅ…んふ♡ はうっ！
んふっ、れろれろ、ちゅうううっ！ んちゅっ、ちゅぶっ、ちゅっ！」

- ◆「ちゅううううっ！ んちゅ、ちゅるりゅ！ あん♡ はうっ♡ うう♡
んふっ、れろろ、りゅりゅっ、ちゅぶあっ♡ んちゅ、ちゅううう♡
はうっ、んふっ…ふう♡」

- ◆「ん、ふっ…んんっ♡ ぷはあっ…」

- ◆「はあ…はあ…いけません。私…とても感じてしまっています」
- ◆「こんな風になるなんて…これがキスの魔力なんでしょうか？」
- ◆「胸もこんなに高鳴って…でも、これも本物の恋人同士だから…ですよ。ね。
きつと」

- ◆「どうぞ、触ってください。柔らかさは、ご存知でしょう？」
- ◆「胸をもみながらのキスをしたら、
もっともっと気持ちよくなれると思いますよ？」
- ◆「まあそれは…私もなんですが。はあむっ…！」

- ◆「んふっ、ふうっ！ んんっ！ んちゅっ、んんっ！ ふうっ♡
んれり、んちゅっ♡ んふっ、ふう、んりゅ、んんっ！
ちゅうっぬちゅっ！ ああ♡ んんっ、ふう…
れろ、れろ…んちゅっ、ちゅうっ！」

- ◆「いいれすよお…その調子ですう♡ んちゅっ、ちゅうつ！ ちゅうつ！
ちゅりゅりゅりゅりゅ！ ぷはあっ♡ んじゅりゅ、はう♡
んれろ、れろ…んちゅ、りゅりゅ…んっちゅうううっ！」
- ◆「ふふ…やはり胸を触りながらだとさらに興奮できるそうですね」
- ◆「私も触れられていると…その性的快感を覚えると言いますか…
さらに気持ちに乗ってきてしまいますね」
- ◆「ですので…さらに興奮することを、しませんか？」
- ◆「ええ、おそらく…あなたの想像している通りのことです」
- ◆「セックス…ですよ」
- ◆「ほら、恋人同士なのですから、やることに不自然な点はありませんし。
私の状態から、前戯も必要ありません」
- ◆「なんて…すみません、思わず前のめりになってしまいました」
- ◆「ただ、私がしたいだけなんです。あなたと、繋がりたいんです」
- ◆「だって、私は…あなたが好きですから。それに、あなたの恋人なのですから」
- ◆「ですから…しましょ？」
- ◆「ふふ、あなたなら…きっと私の願いを叶えてくれると思いました」
- ◆「おちんちん、こんなに大きくしてもらって、嬉しいです♡」
- ◆「先程も言ったように、
私は、もうあなたを受け入れる準備はできています。
こんな風になっちゃってますから…」
- ◆「では、私の方で挿れてしまいますから。あなたはそのままいてください」
- ◆「んっ…♡ ふうつ…んんっ！ はっ…くう♡」
- ◆「くあっ…はあ♡ はいったあ♡ んふっ…んんっ♡
おちんちん…こんな圧迫感を感じるなんて…♡」

- ◆「ふふ、初めて…繋がれましたね♡
私の処女を奪ってくれて…ありがとうございます」
- ◆「そうです。これは私の…私達の初めてのセックス…です。
今までは、そういう機会もありませんでしたし…」
- ◆「ずっと…ずっと…こういう風になりたかったのですが。
昔の私は、臆病…でしたから」
- ◆「そういった意味では、こういう機会を得られたことには、
感謝しないといけませんねっ♡」
- ◆「はふっ♡ んんっ、ふう…ふう…動くのは少しだけ待ってくださいね。
まだ、私のおまんこが、あなたの形に慣れていないようなので」
- ◆「それまでは、こうやって…はあむっ♡」
- ◆「はむっ…ちゅう、ちゅっ、ちゅっ！ んちゅっ！ ちゅっ！ ちゅっ！
ちゅうううっ！ んじゅっ、ちゅ！ ちゅりゅ、んちゅりゅりゅりゅ！
んふっ！ はあはあ…はふっ、んっ、ちゅううっ♡」
- ◆「んっ…はあはあ♡ ふふ、キスをしたらまた大きくなった♡」
- ◆「そろそろ、私のおまんこも準備ができたようですし…動いてみますか？」
- ◆「あなたの好きなように、気持ちよくなるように…
私の体を、貪ってください。んっ…！」
- ◆「んんっ！ ふうっ、あふっ！ ああっ！ ああん♡
あうう…ふうっ、ふっ、んふっ、んんっ！ あううっ！」
- ◆「すご…激し、激しいですうっ！ ああっ！
いいですよっ…私の気持ちいいところにもたくさん当たってますうっ！
んふっ、んんっ、あうっ、ふうう…♡」

- ◆「あえっ！ んんっ！ あんっ…あううっ！ はあっ♡
ドチュン、ドチュンって、突かれるたびにいつ…んんっ！
頭にばちゅんっ、ばちゅんっ！ って気持ちいいのが響いて…！」

- ◆「んっ…ふうううっ！ はうっ、あああっ！ あんっ！
んっ、ふうう、はっはっはっはあっ♡ あえっ…んんふうっ！
はあっ、んふっ、んんっ…くううっ！ あんんっ♡」

- ◆「あっ、あっ、あっ♡ はあ、はあっ♡
少し時間を置いたからでしょうか？
おちんちんとおまんこが密着したから…ぎゅぽぎゅぽ♡
ぎゅっぎゅっ♡ ってなってるえ…！」

- ◆「あっ、気持ちいい！ 気持ちいい！ 気持ちいい！
んっ、んあっ、ふあああああああ～～～っ！」

- ◆「はあっ、はあっ…ご、ごめんなさい…先に絶頂…してしまいましたあっ！
んんっ、ふうっ、んんんっ！」

- ◆「あなたのおちんちんが気持ちよすぎてっ…
いいところをたくさんついてくるからっ♡
我慢…できません、でしたあっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡」

- ◆「ああっ、らめ、らめですう♡ また、イクうううっ！
んああっ…ああっ！ んふううううっ！」

- ◆「はあっ！ はあっ！ んっ！ んふうっ！
こっち、こっちを見てくださいいっ！」

- ◆「はあむっ♡ はんっ♡ はうっ♡ んちゅっ、んんんっ！ んふうっ♡
んれろ、んちゅ、ちゅぶちゅうっ♡ んじゅりゅ♡ はうっん♡
はあ、はあ…♡ はふうっ、んちゅ、ちゅう♡ ちゅううっ♡」

- ◆「キス…きす…きしゅ、好きれすう…♡
イキながらのキス…気持ちよすぎて…んんっ！
またあっ…ああああっ♡」

- ◆「あなたも、気持ちいいですよねぇ♡
柔らかいおっぱいを押しつけられながらっ、
いやらしいキスをしてっ…セックスをするのっ…んふっ！ んんっ♡」

- ◆「2人で、どこまでも気持ちよく…気持ちよくなりましょう？
いっぱいいっぱい気持ちよくなって、
訳がわからなくなるくらいになってえ…！
最後に最高の絶頂を、迎えましょう♡」

- ◆「ですから、出す時はぜひ…私の膈内に、お精子を注いでくださいっ♡」
- ◆「んふ、ふう♡ え、遠慮♡ 遠慮はいりませんからね？
元からこの体はあなたのためのものなんですから♡
あなたのドロドロ白濁液で、
私の膈内にねっとりと種付けしてくださいっ！」

- ◆「それが1番、んんっ！ あなたにとってもおっ！ んんふ！
気持ちのいい射精になるはず…ですからあ！
んんっ！ んあっ！ ああっ！ あふっ！ んんんっ♡」

- ◆「どうぞ、私はいつでも…受け入れますっ…からあっ！
出してくださいなあっ！ んんっ！ はっ♡ はっ♡ はっ♡」

- ◆「はっ♡ はっ♡ はっ♡ 速くなってえっ♡
そろそろ、出そう…なんですねえ♡」

- ◆「くださいっ！ くださいっ！ くださいいっ！
あなたのお精子を、私のおまんこの1番に…！
はあ♡ はあ♡ はあん♡」

- ◆「はあっ！ んんっ！ ふうっ♡ ふうっ♡ ふうっ♡
んんっ♡ はふうっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡
はうっ、んんんんんっ！」

- ◆「出して♡ 出して♡ 出して♡
私の絶頂痙攣中の子宮にい、あなたの精子をドバドバ出してえっ♡」

- ◆「はうっ♡ 私の子宮をあなたので満たして…はあ♡
カップル成立記念のお、膣内お射精をおっ♡ してえくさあい♡
んむっ、んんっ！ ほら♡ ほら♡ ほら♡ ほらあっ♡」

- ◆「あああっ！ わ、私も…大きいのがっ…んんっ♡ きてますっ…からあっ♡」
- ◆「ああ、ごめんなさい！ ごめんなさい♡ もう…限界れすうっ♡
イク♡ イク♡ イッちやううう～！」

- ◆「ああんっ！ あっあっあっ！ んんっふうっ！ んんっ！ 出る？
あなたもイキそうなんですnee！ はあ～♡ ふう～♡」

- ◆「あっ！ 出たっ…出たあっ！ お腹の奥にビチビチビューって♡
びゅうううう～～～っ！ んんっ！ びゅうっ！ びゅうっ！
びゅう～～～っ♡」

- ◆「あっあっ！ まだ出て…また、イクっんっ♡ はあっ！ ああっ！
んんん～～～♡」

- ◆「ああっ…んんっ…はあ♡ はあ♡ はあ♡ ああっ…んっ、ふう…♡」

- ◆「たくさん出していただき…ありがとうございます♡
あなたからの愛…全身で、感じられました♡ 私今、とっても幸せです♡」

- ◆「ふふふ、これで私はあなたの本物の彼女になれましたね♡」

- ◆「これからも…ずっとずーっと愛し合って、幸せになりましょうね♡
…ちゅっ♡」